



日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜
日刊日曜日曜日曜

座講識常
セカンドは第二の意
た時計の秒、野球の二
三、セカンドは、セカ
第二夫人或は妻、セカ
ンド、ハンド、ラジは
既婚婦人の戀、二度目
の戀、セカンドランは
封切映畫の次週の上映

公民的自覺を促し 選挙の肅正を強調

眞に我等の代表を出すこと 平市の愛市聯盟結成式

平市では来るべき市議員選挙第一回の踏み出しを殊に基の將來の影響に重大なる關係あるを深考して愛市聯盟を創設されることは既報の如く此の發會式を昨十七日午後一時平市の會議室に於て舉げられた出席者は市内官衛長、方面委員、學校長、醫師、辯護士等の智識級五十餘名で嚴密な結成の後規約の制定、役員選舉を行ひ會長に水野虎三郎

破産宣告された 山田代議士抗告

原告に申立の適格無し

既報：横濱市中區辨天通り二丁目毛糸問屋渡邊文三郎氏からの負債一萬二千圓未拂により去る十日平區裁判所から破産を宣告された双葉村上岡村代議士山田六郎氏は、渡邊文三郎氏の債權は既に時効にかゝり消滅したもので申告の適格なく因てさきの破産宣告は失當であるとの理由を以て十七日午後八時平市市安齋辯護士を代理人として抗告の手続きを取つた

實業教育研究

視察研究を興く
石城郡實業教育振興會では七月五日から四日開左の日制で實習地視察研究會を開催する

平市の藝妓の玉代 七月から七十五錢

現在の六十七錢に八錢値上 料理屋のハネ十八錢三厘

平市内の藝妓置屋は現在十九戸（本玉八〇半玉一三）で一ヶ年の賣上げ廿萬本の金額約十萬圓に達するが市制の施行と共に技術その他質の向上と衛生設備の改善に經費の増額を免れない結果半玉は此の程四十錢に値上げされ本玉の値上げについて數日料理店側と交渉中であつたが昨十七日之れが決定のため午後二時から田町末廣亭に兩業者を會して協議會を開いたところ立場によつて各々理窟があり關係料理屋四十四戸の中卅九名の出席と藝妓側全員出席との間に業的に眞剣な意見の交換夜の九時過ぎ迄及び漸く藝妓側側の提唱する玉代七十九錢（従前は六十七錢）に値上げを決し料理屋側の劔ね錢十六錢八厘を十八錢三厘（二割四分五厘強）で折合ひがつ

四倉瀆市場 白濁出週二千六百十八圓

白濁出週二千六百十八圓
代金一萬四千五百五十四圓
高値五圓八十五錢 安値五圓二十錢 平均五圓五十七錢
黃鰯出週二十四圓（一口）代金百三十九圓 相變五圓六十八錢 掛日づつても四十圓

熊田部長赴任

熊田部長に昇進して原町署勤務となつた平署特高刑事熊田義春氏は廿一日午前十一時七分發列車で赴任する

原因は別れ話から 好間爆薬心中事件後報

果敢なし撰炭場の戀の破局
んは死を分曉して最後の日立ち悪く二十日程前から近所に住む父義三方に歸宅してゐた所が病氣が悪くなる一方なので隣家の脇谷幸三郎さんが仲に入つて離縁することに話がきまりこの日十一時三十分頃みねは父親の背に離縁状を持参し源之助の許へ印鑑を貰ひに行つたところみねさんに未練をつぶらな源之助は復縁を迫つたが應じないので此離縁となつたものである

炭礦當事者へ警告

ダイ使用事件の頻發に 平署嚴重取締りの方針

ダイナマイトを使用する心中のダイナマイト中心三件に上事件は炭礦地方特有のものでりこの外赤井村の一家殺設計石城郡下ではこゝ四、五年間、勿來町大日本炭礦の火藥

四倉瀆連日賑ふ

はやくも夏氣分
中通りの女工さん利到
晴れず、かと思つて降りもせずこのところ毎日鬱陶しい梅雨氣分がついてゐるがこの天候をよそに四倉の海岸にきよけふ女工さん群がどつと押しよせて時ならぬ賑ひを見せてゐる、郡山日東防績工場職工千二百名が十六日団体列車で四倉に繰り込み泳ぐにはまだ早過ぎる海岸で貝拾ひや砂遊びに興じて引き上げたが十七日には本官製糸の女工さん四百五十名がやつて来て合憎の曇天をうらみながらそれでも山國育ちの彼女たち充分に海濱氣分を味つて歸つた、更に十八日は福島の日東防績工場千二百名が押しよせ町の飲食店などの季節はづれのお客さんの洪水に嬉しい多忙をかこつてゐたこの梅雨があければわれらのシーズンとばかりは早くも海水浴客誘致に比べて甚だ容易であるけれども、資料の量に於ては、前者の數倍に達してゐる。是れは時代的に觀て當然な存在であらう。

自動車体検査

自動車体検査
平市各管管内自動車々体検査は二十四日から三日間平市八幡小路検査場で行ふ検査台數三百二十台

性懲りぬ助手

性懲りぬ助手
双葉郡熊野町生れダットサン運轉助手松本忠治（三）去月一日平市古銀治町石井自動車部車庫に侵入し手本田君の衣服數點（十七圓）を窃取したことを發覺し十七日平署に捕はれ微罪の故を以て嚴罰訓戒され午後十時許放されたが性懲りもなく今晩二時頃小川村信用組合事務所のカギを破つて忍び込み物色中を警員に見えられ再び平署へ送戻り

近世の諸文に 見れた平の事

見れた平の事
日爲し得ないのは勿論だ。従つて其の爲の直接間接の謂はゆる之が資料は、郷土の内外を通じて無慮數百種を算えられよう。

筆隨

筆隨
目黒祐天寺より
（勿來文庫 雜抄）
（川 漁 史）

農業方面

桃の栽培 (三)

藤原誠石 齋藤技師
城分場長

従来の剪定は樹の高くなることを恐れ樹勢の強いものに強い剪定をして樹の形に餘り握られすぎた傾向がある、それで施肥量は少なくして樹勢を弱めることが桃栽培の秘術であるかのやうに考へたのが多いがこれは誤りも甚だしきものである。経済的栽培では土地の肥沃なところを選び積極的肥料もある程度まで多くし一方剪定を控へて結實を促してこそ成功するのである。

栽植當時殆んど無肥料で済むやうな土地でも盛果期に達しては相當の肥料を施す必要がある、まして山地を新しく開墾して栽植した場合等は充分に肥料を施す必要がある、尚ほ注意すべきことは果樹類一般に共通のことではあるが土地の状態によつて樹の發育や生産力は異なる程度まで限定されて了ふことである、されば若し耕土が非常に淺いところがあるならば肥料の力のみによつては樹の發育を旺盛に維持することは不可能である、従つて單に施肥量の多少のみを以て収量問題を解決することは不可能である、生産力はある程度までは肥料の用量如何によつて定められるが、程度以上になると生産力の大小は寧ろ土地そのものに支配される。

(一) 肥料の用量、肥料の用量の決定は果實、新葉、新梢、枝幹、根部等が一年間に増大するに要する三要素の總量を求めてこれだけを供給するのにはどれだけの肥料を施せばよいかと云ふ様に考へて決定するのであるが未だ論理的に完全に決定するまでに至つてゐない。

を求めてこれだけを供給するのにはどれだけの肥料を施せばよいかと云ふ様に考へて決定するのであるが未だ論理的に完全に決定するまでに至つてゐない。

スペインG・H・N 元詰 ゴルフポートワイン

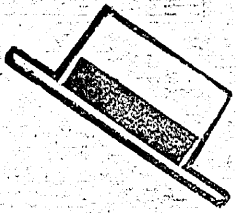
旨味 甜酸 1・10

飲酒人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です

(平2) 西村屋薬舗 (電3)

平市紺屋町 藤沼醫院

電五〇七番



Y.40...Y1.30

1937型パナマハット

Y75...3.00...9.80

カンカン帽は踊る...冠つたタイプ
お、涼味...涼味...涼味
其の他可愛らしい...
お子様用帽子豊富陳列

ツルヤ (平市四電一四〇)

産科 婦人科 院長 長木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 大岩俊雄

平市新川町九一
入院隨意 病室完備
木村病院
電話一六四番

北川外科

外科一般 内臓外科
レントゲン科 泌尿器科

(血液検査毎日)
インテモ
入院デキマス
技師 小林良次

平市新川町二七(電四六四)

中野齒科醫院

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠

平市紺屋町(月夜向ひ) 電話五〇九番

目科療診
一、齒科 一般
保存科、補綴科、歯肉外科、
齒列矯正科、小兒齒科、
一、口腔 外科
一、レントゲン科

債券 公債 兩替 金融
多田井質店
平市大工町
電話五九一

和洋銅鐵、金物問屋
店南屋釜
九九・九電

諸毒下りの大妙藥
安流丸
持石山野遠樂局

久
店南山橋
債券部
町間仲市平
〇一六〇九東京警振
番一七二話電

平病院 (平市元共濟病院跡) (電話六四一番)

院長 醫學博士 鈴木定藏

内科 院長 醫學博士 鈴木定藏
小兒科 部長 醫學士 木下基一
産婦人科 部長 醫學士 池谷宗三郎
皮膚泌尿器科 部長 醫學博士 鈴木定藏
レントゲン科 部長 醫學博士 鈴木定藏
物理療法科 技師 岡田重徳
藥劑師 部長 藥劑師 吉本幸平

診療時間 毎日午前八時より午後九時迄
夜間診療に従事す(急患は此限にあらす)

往診隨時、病室完備(自炊の便あり)

表代城懸
酒鶴
味経清
山崎合名社

産科、婦人科専門
根本醫院 (平市南町) (電話三三三番)

病室 入院隨時
手術室完備
根本庄次郎
根本貞雄

内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

平市田町 電話五二二三番
高久病院
院長 醫學士 高久 忠